

PowerEdgeにおける電源のON/OFF

PowerEdge製品の電源をON/OFFするには、主に以下の4つの方法があります。

方法	事前作業	UI	ON	OFF
電源ボタン	なし	手	○	○
BMC	BIOS設定など	IPMIコマンド	○	○
DRAC (オプション)	なし	Web	○	○
OMSA	インストールなど	Web	×	○

一般のPCと同様に直接電源ボタンを押す方法に加え、リモートからの制御方法として4つの方法があります。DRACを利用すれば、とくに設定作業の必要はなくリモートから制御できます。

フロントの電源ボタンは、OSのシャットダウンからOK

ACPIに対応したハードウェアおよびOSであれば、電源ボタンを押すことで、OSをシャットダウンしてから電源を切ることができます。Windowsはもちろん、LinuxもACPIに対応したOSのため、PowerEdgeとLinuxの組み合わせでも、この機構が機能します。フリーのLinuxディストリビューションでも、ほとんどの場合問題ありません。



リモートからBMCへ電源制御コマンドを発行

PowerEdgeにはBMC (Baseboard Management Controller)が搭載されており、IPMIコマンドの発行でリモートから電源を制御できます。

ただし、利用にあたっては、多少の設定作業が必要です。出荷時はこの機能が有効化されていないため（知らずに制御できてしまう状態はまずい）、BIOS側でいくつかの設定が必要になります。また、制御するクライアント側には、IPMIのクライアント（コマンド）を導入する必要があります。DVDの「BMC Management Utility」（バージョン5.3の場合はSystems Console and Agent）のディスク）にWindows用とLinux用のクライアントが用意されています。また、ほかのオープンソースのIPMIツールなども利用可能です。

例：電源を投入する（添付のWindows版コマンドを使う場合、ユーザーとパスワードはBIOS側であらかじめ設定する）

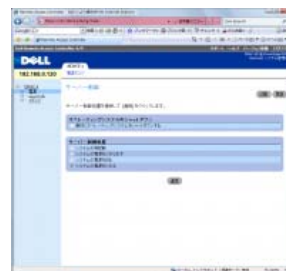
```
C:\Program Files\Dell\SysMgt\bmc>ipmish.exe
-ip <設定した制御用IPアドレス> -u <ユーザー> -p <パスワード> power on
```

例：電源を切る

```
C:\Program Files\Dell\SysMgt\bmc>ipmish.exe
-ip <設定した制御用IPアドレス> -u <ユーザー> -p <パスワード> power off
```

DRACのWebインターフェイスからON/OFF

DRACはサーバー本体と独立しているため、そのWebインターフェイスを使って電源のON/OFFもできます。ちなみに、DRACのデフォルトIPアドレスは「192.168.0.120」、ユーザーは「root」、パスワードは「calvin」となっています。

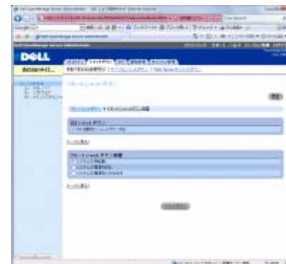


DRACの電源制御画面

OMSAのWebインターフェイスからOFF

OMSAをOS上にインストールし、Webインターフェイスを提供するデーモンが起動していれば、そのサーバーの1311番ポート（デフォルト）にWebブラウザで接続することによってシャットダウンが可能です。ただしOS上のソフトウェアとして実行されているため、電源の投入はできません。ログイン時のアカウントはOSで設定したものにになります。

- /etc/init.d/dsm_om_connsvc start : Webインターフェイスの起動
- http://<サーバーのIPアドレス>:1311/ : OMSAのWebインターフェイスにアクセス



OMSAからシャットダウン